

九州地域 社会資本 データ博物館の建設

はじめに

わたしたちの周辺には膨大な情報が渦巻いています。それも役立って始めて情報なのであって、必要なとき、どこにあるか、即座に使用できないようでは情報とはいえません。この提案は、九州地域の社会資本整備の歴史を踏まえ、将来を見据えられるよう、これまで多方面に蓄積されたデータを集積し、不特定の方々へのアクセスを確保するものです。インターネットを最大限活用するデータの仮想空間殿堂であり、表題のように命名されるものです。

● 建設の必要性

最も基礎的な情報として統計データがあり、政府刊行物センターなどで市販され、あるいは、図書館等で入手できますが、やや専門的な種類のものとなると、各行政機関等にはばらばらに存在しているのが実情です。それら、九州地域の社会資本整備に関するデータは、公的機関、建設業、建設コンサルタント等の建設関連業、マスコミ、NPO などの各種団体、大学等教育機関、学生、社会人など、属性別に多様なニーズが潜在していると考えられます。が、それらニーズに応えるサービス機関がありません。つまり一般的に、情報へのアクセスがうまくいかず、その場合膨大な追跡作業を必要とします。そのため活かされないまま死蔵された多くの情報もあることでしょう。

● 博物館の構想・機能

この提案は、ここに情報があるよ、とアンテナを掲げる役目と、実際に、データへのアクセスを可能とする情報センターを建設するものです。

ひるがえって、わが国社会は、ピラミッド型から地下茎型社会へと変貌しつつあるといわれます。インターネットはその典型で、どこが頭でどこが尻尾か分かりません。そのくせなんとなく、全体としてはひとつの有機体を形成しているのです。地方分権化もその方向を志向していますが、やがては地域々々が個性的に輝く星座型の国土形成が進むよう願いたいものです。その地下茎社会の血液は情報です。情報を媒体として、コミュニケーションし、連携し、協力しあうのです。構想はこの時代性を確保します。

● 情報の種類

情報は、たとえば、統計データや書物、論文などがあります。それら膨大な文献すべてを一堂に集めるのではなく、それらがどこに存在しているか、そのアクセスを導く役目を担うわけです。〇〇県立図書館にあるよ、こんな人がそのことを熱心に研究しているよ、までが分かればいいのです。というわけで、この博物館は、実際のデータの収集を行い、既存データの散逸を防ぐと同時に、ユーザーが実際に本館を訪れ、あるいはインターネット経由でアクセス可能な状況にします。

九州のよりよい社会資本整備に役立つよう、その建設を望みつつ提案します。